

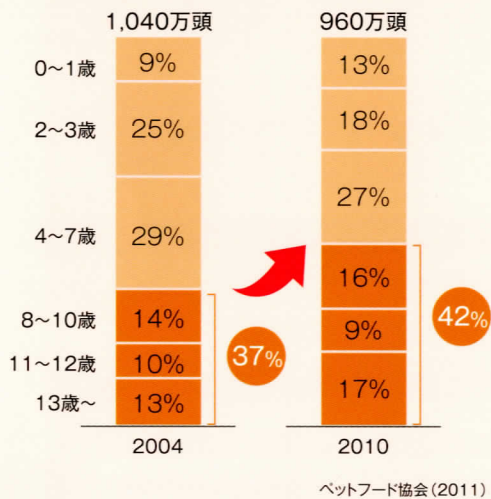
猫の慢性腎臓病:包括的処方と治療のご提案

今後の慢性腎臓病看者頭数は増加すると考えられます。

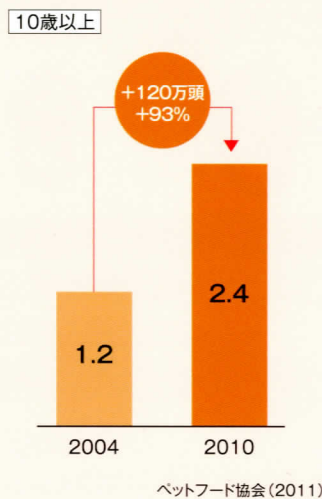
日本では猫の高齢化に伴い、慢性腎臓病 (CKD) の患者数は増加傾向にあると考えられます。

今後も、猫の高齢化は加速すると見込まれており、CKDの患者数は今後も増加することが予想されます。(表1~3)

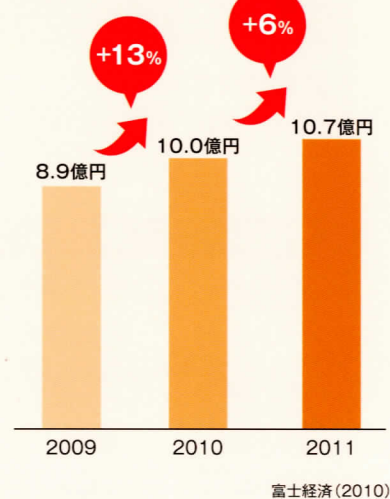
(表1) 飼育猫の年齢構成



(表2) 猫の頭数推移 (百万頭)



(表3) 猫の腎臓病用療法食売上げ推移



CKDの包括的治療の必要性

CKDでは複数の悪化因子が認識されています。

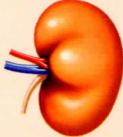

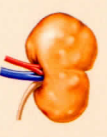

CKDの悪化因子: 1.尿たんぱく 2.高血圧 3.リン 4.尿毒症物質 5.脱水



このうち診断と治療の双方において最も重要なのが「尿たんぱく」ですが、その他の因子も同様にCKDを進行させるため十分に管理する必要があります。しかし、それぞれの悪化因子に対して各々の対処が必要であるため一元的な治療/管理は難しく、包括的な治療/管理が求められます。

管理戦略の手法と開始時期

CKD悪化因子のそれぞれに対する管理戦略は方法も開始時期も異なります。それらの項目を整理するために、IRIS (国際獣医腎臓病研究グループ) の提言によるCKDのステージ分類に照らし合わせ、各管理戦略の開始時期と使用機会等を以下にまとめました。

猫の慢性腎臓病		適応ステージ			
クレアチニンの血清濃度(mg/dL)		1.6	2.8	5.0	
ステージ分類		ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3	ステージ 4
所見		腎臓に何かしらの異常がある	軽度の臨床症状	全身に様々な症状がある	全身に症状があり、尿毒症の危険性が増加
腎臓の状態 (イメージ)					
悪化因子	管理戦略				
たんぱく尿	ACE阻害剤				
高血圧	ACE阻害剤				
血中リン	療法食/リン吸着				
尿毒症毒素	毒素吸着				
脱水	輸液				

管理戦略	働き	使用機会	バルティスのラインナップ
ACE 阻害剤	<ul style="list-style-type: none"> 糸球体高血圧の抑制 尿たんぱく漏出の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 持続的に高血圧がみられる時 持続的にたんぱく尿がみられる時^{*1} 	フォルテコール[®] フレーバー
療法食	<ul style="list-style-type: none"> 慢性腎臓病に配慮した栄養バランス 食事中のたんぱく質、ナトリウム、リンを制限 	<ul style="list-style-type: none"> 慢性腎臓病と診断された時 	Dr's Care[®] 猫用キドニーケア
リン吸着製品	<ul style="list-style-type: none"> 食餌中のリンを吸着 消化管内のリンを吸着 	<ul style="list-style-type: none"> 療法食の代替として使用 療法食に添加して使用 	レンジアレコ[™]
尿毒症毒素吸着剤	<ul style="list-style-type: none"> 消化管内の尿毒症毒素を吸着し便とともに排泄 リンの吸着はしない 	<ul style="list-style-type: none"> BUN40mg/dL以上、Cre2mg/dL以上など、体内への尿毒症毒素の蓄積が予想された時^{*2} 	コバルジン[®]

^{*1} CKDの重症度に関わらず、たんぱく尿や高血圧はみられる可能性があります。 ^{*2} IRISのステージII以上に相当

『IRISによるCKDの病期分類 / 治療管理』について

麻布大学 附属動物病院 渡邊 俊文 先生より

ここ数年、慢性腎臓病に関連する国内外の学会や研究会における発表や報告においてIRISという言葉がやっと聞かれるようになった。IRIS (国際獣医腎臓病研究グループ) とは、1998年9月にオーストリアで開催された欧州獣医内科学会において、腎臓病、泌尿器疾患を専門とする10カ国16名の専門家が集まり設立した研究グループであり、年に1回会議を開催し、今年で15年目をむかえる。

IRIS設立当時、まず問題となったのは各国での慢性腎不全のとらえ方が異なることから、まず腎臓病に関して世界各国が同じ土俵の中で議論できるように標準化を図り、獣医臨床の場において広く役に立つような腎疾患の診断や治療を導くことを目的とし、慢性腎臓病(CKD)の病期分類と病期に合わせた治療の検討を積み重ねている。

このIRISによるCKDの病期分類ならびに病期に対応した治療管理を行うことによって、これまで主観的であった慢性腎臓病の管理を獣医師ならびに飼い主の両面において客観的に評価、理解を得ることが出来、より早期からの慢性腎臓病の管理につながる重要な指標として推奨する。



バルティス アニマルヘルス株式会社
東京都港区西麻布4丁目12番24号 <http://vet.novartis.jp>

ノバルティスカスタマーサービス ☎0120-162-419
月～金/9:00～12:00、13:00～17:00 (祝祭日除く)